

ツツイトモ

Potamogeton pusillus L.

被子植物・単子葉類
ヒルムシロ科

今回評価	絶滅
環境省(2014)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2007)	絶滅危惧Ⅱ類

評価理由	1950年にみどり市で採集された標本が発見された。その後の記録はなく、また過去に生育した水域は改修工事により沈水植物が生育できる環境ではないため絶滅と判断した。
------	--

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	池沼開発 過去の沼の改修工事が壊滅的な影響を与えたと考えられる。
--------	-------------------------------------

総産地数	1
現存	0
不明	0
絶滅	1

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	×

シラオイハコベ

Stellaria fenzlii Regel

被子植物・双子葉類
ナデシコ科

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	1地点の狭い範囲に50株未満が確認されている。産地が局限されるため、絶滅のリスクが高いと考えられる。
------	--

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	特殊分布 本県の分布域は、崩壊しやすい立地に成立した高茎草原や低木林である。そのため、生育基盤が脆弱と考えられる。
--------	--

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	2016年に生育が確認された。現在のところ生育地にはニホンジカの侵入は確認されない。
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

ジロボウエンゴサク

Corydalis decumbens (Thunb.) Pers.

被子植物・双子葉類
ケシ科

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	過去に標本が採集された2カ所では周辺を含めて生育が確認されなかった。別の地点で生育が確認されたが、人里に近く生育基盤は極めて脆弱である。
------	--

適用基準	定量A C
------	-------

主な危険要因	土地造成、動物食害、その他(道路工事) 分布域はニホンジカとイノシシの侵入により、早春季植物の衰退が著しい。
--------	---

総産地数	3
現存	1
不明	0
絶滅	2

特記事項	県内では分布域が限定される。また、人里の植物で、生育地が開発や道路工事により減少してきたと考えられる。加えてニホンジカやイノシシの分布域への侵入によって壊滅的な状況である。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

ガクウツギ

Hydrangea scandens (L.f.) Ser.

被子植物・双子葉類
ユキノシタ科

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由 1町域の2地点から記録があるが、うち1地点では今回確認できず、残りの地点も生育株は少ないとの私信情報のみ。ニホンジカ、イノシシの増加により生育環境が悪化している。

適用基準	定性
------	----

主な危険要因 動物食害、外来種競合・交雑
分布域にニホンジカとイノシシが侵入し、植生が変化している。また、竹林が急速に拡大している。

総産地数	2
現存	0
不明	2
絶滅	0

特記事項

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	○
東部	

カラフトアカバナ

Epilobium ciliatum Raf. subsp. *ciliatum*

被子植物・双子葉類
アカバナ科

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由 1山域の特定の沢にごく少数の株が生育する。加えて砂防ダムによる埋没も危惧される。

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因 動物食害、河川開発(砂防工事)
生育地附近は源流近くまで砂防工事がなされている。

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項 分類が難しい上に花が小さく、現地での確認は難しい。生育地がある山域の隣接県側でも記録があり、精査すると別地点にも生育しているかもしれない。

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

ヤツガタケムグラ

Galium triflorum Michx.

被子植物・双子葉類
アカネ科

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	絶滅危惧IB類
環境省(2007)	絶滅危惧IA類

評価理由 1山域の特定の沢にごく少数の株が生育する。加えて生育地は谷壁の崩落や泥流発生など攪乱が起こりやすく不安定である。

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因 特殊分布、その他(災害)
生育環境が限られ、かつ不安定である。

総産地数	2
現存	2
不明	0
絶滅	0

特記事項 2015年に生育が確認された。自生地は現在のところ砂防工事や伐採は行われていない。

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

エゾニガクサ

被子植物・双子葉類
シソ科

Teucrium veronicoides Maxim.

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	絶滅危惧IA類
環境省(2007)	絶滅危惧IA類

評価理由	1地点に少数の株が生育しているだけである。草地の管理放棄により衰退するおそれがある。
------	--

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	管理放棄、動物食害
--------	-----------

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	国立科学博物館と群馬県立自然史博物館で、別種に同定された同一草地産の標本が、それぞれ独立に本種に同定された。本県のもは東北地方多雪地の変種のエヌニガクサと形態がよく合致する。しかし、エゾニガクサが多型である上に、エヌニガクサの実体がよくわからない現状では、本県のものも、広く解釈しエゾニガクサに含めた。
------	---

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

エゾムカシヨモギ

被子植物・双子葉類
キク科

Erigeron acer L. var. *acer*

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	1地点の狭い範囲に50株未満が確認されている。産地が局限されるため、絶滅のリスクが高いと考えられる。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	特殊分布、その他(岩石風化)
--------	----------------

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	2016年に生育が確認された。現在のところ生育地にはニホンジカの侵入は確認されない。
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

ムサシモ

被子植物・単子葉類
イバラモ科

Najas ancistrocarpa A.Braun ex Magnus

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	絶滅危惧IB類
環境省(2007)	絶滅危惧IA類

評価理由	1990年代に東部地域で採集され、トリゲモと同定された標本が本種であることが判明した。採集地周辺を調査したが、生育を確認できなかった。
------	---

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	土地造成、農薬汚染 水田で採集されたため、圃場整備や除草剤による絶滅のおそれが高い。
--------	---

総産地数	1
現存	0
不明	1
絶滅	0

特記事項	トリゲモ類の中でも攪乱後一時的に発生して、その後種子休眠することが多い一年生の種。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	△

シコクヒロハテンナンショウ

Arisaema longipedunculatum M.Hotta

被子植物・単子葉類
サトイモ科

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	絶滅危惧IB類
環境省(2007)	絶滅危惧IB類

評価理由	同一町域の3カ所から約80株が確認された。ニホンジカによる食害により衰退していると考えられる。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	動物食害、分布限界 ニホンジカによる食害によりサイズが小型化し、開花株の減少が著しい。
--------	--

総産地数	3
現存	3
不明	0
絶滅	0

特記事項	近年群馬県にも分布することが判明した。群馬県は分布の北限。テンナンショウ類は株の性がサイズに依存しており、ニホンジカ食害による小型化によって雌雄性株はわずかしかみられない状況である。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	○
東部	

オオアオスゲ

Carex lonchophora Ohwi

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	1地点で250株が確認されたが、2012年レッドデータブック改訂時の別の調査地では生育を確認できなかった。遷移の進行により衰退すると考えられる。
------	--

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	自然遷移、土地造成
--------	-----------

総産地数	2
現存	1
不明	0
絶滅	1

特記事項	森林の遷移進行により急速に衰退する。また、現存生育地は公園整備も危惧される。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

キンスゲ

Carex pyrenaica Wahlenb.

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	1地点のごく狭い範囲に生育が確認された。株数が少ない上に生育地登山道に隣接しているため、踏みつけにより群落が消失するおそれがある。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	踏みつけ、特殊分布
--------	-----------

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	群馬県植物誌改訂版(1987)に記載がある地点とは別の地点から近年発見された。登山道が生育地を通過しており、踏みつけとともに種子散布の支障になっていると考えられる。登山道以外に踏み込まないための具体的な方策や、抜本的には登山道の付け替えが望まれる。
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

スジヌマハリイ

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

Eleocharis equisetiformis (Meinsh.) B.Fedtsch.

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	絶滅危惧II類
環境省(2007)	準絶滅危惧

評価理由	1カ所の狭い範囲に群落が確認された。裸地に大きな群落を急に形成した後、衰退することが多い。群馬県の自生地も増加期に入り気づかれたものと考えられる。
------	---

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	自然遷移
--------	------

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	2016年に生育が確認された。遷移の初期に出現する種で、遷移とともにいったん地上部が消失することが多い。一方で、地下茎によって旺盛に繁殖し、県外では休耕田一面を覆うこともある。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

クゲヌマラン

被子植物・単子葉類
ラン科

Cephalanthera longifolia (L.) Fritsch

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	絶滅危惧II類
環境省(2007)	絶滅危惧II類

評価理由	1地点でごく少数の株が確認されたのみである。園芸採取が危惧される。
------	-----------------------------------

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	園芸採取、その他(道路工事)
--------	----------------

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

アキザキヤツシロラン

被子植物・単子葉類
ラン科

Gastrodia verrucosa Blume

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	近年同一市町村内の4地点に約300株が確認された。最大生育地に道路着工の予定があり、また、特定の菌類に栄養を依存する生態のため、生育基盤が脆弱である。
------	---

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	その他(道路工事)、森林伐採
--------	----------------

総産地数	4
現存	4
不明	0
絶滅	0

特記事項	2016年に生育が確認された。生育立地はやや特殊で、特定の菌に依存するため、生育基盤は脆弱と考えられる。生育環境のわずかな変化によって発生しなくなることも考えられる。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

コウシンテツカエデ

被子植物・双子葉類
カエデ科

Acer nipponicum H.Hara subsp. *orientale* T.Yamaz. var. *koshinense* T.Yamaz.

今回評価	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	1町域内の2カ所で生育が確認できた。ただし、周囲には立ち入り困難な山域が存在し、一定の分布域をもつと判断される。ニホンジカによる稚樹の食害が危惧される。
------	--

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	動物食害、森林伐採、分布限界 過去の自然林伐採に加えて現在、ニホンジカの食害が主要な脅威になっている。
--------	--

総産地数	2
現存	2
不明	0
絶滅	0

特記事項	広義のテツカエデのうち、多野山地のもの(県北部の多雪地のものはキタノテツカエデに属する)。南アルプスから奥秩父に分布し、本県は分布の北限にあたる。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	○
東部	

ヤブムグラ

被子植物・双子葉類
アカネ科

Galium niewiczii Franch. et Sav.

今回評価	絶滅危惧II類
環境省(2014)	絶滅危惧II類
環境省(2007)	絶滅危惧II類

評価理由	1町域の2地点から約250株が確認された。現在のところ生育は旺盛であるが、一部にイノシシの掘り返しとともにアズマネザサの侵入がある。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	動物食害、その他(遊歩道整備)、管理放棄
--------	----------------------

総産地数	2
現存	2
不明	0
絶滅	0

特記事項	本種は南関東と埼玉(南西部)、茨城(鹿行)の固有種である。今回発見された生育地は工事の痕跡や自生域との人為的なつながりのない山中で、国内外来種とは考えづらい。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	○
中部	
西部	
東部	

テングクワガタ

被子植物・双子葉類
ゴマノハグサ科

Veronica serpyllifolia L. subsp. *humifusa* (Dicks.) Syme ex Sowerby

今回評価	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	5地点に500株が確認されたが、尾瀬以外では絶滅状態である。外来の亜種コテングクワガタにより排除された地点が多く、現在も交雑が進行している。
------	--

適用基準	定量A, C
------	--------

主な危険要因	外来種競合・交雑 外来亜種のコテングクワガタとの競合・交雑が最大の脅威になっている。
--------	---

総産地数	9
現存	5
不明	2
絶滅	2

特記事項	尾瀬でもすべての山小屋・休憩所周辺にコテングクワガタが侵入している。花や茎の腺毛がテングクワガタとコテングクワガタの中間を示す株も確認されている。
------	---

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	△
中部	
西部	
東部	

ホスゲ

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

Carex deweyana Schwein. subsp. *senanensis* (Ohwi) T.Koyama

今回評価	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	1山域の2カ所で近年確認された。分布域の山は立ち入り困難な場所が多く、他にも生育地点があると推定される。株数は少ないが、目立った絶滅のおそれの要因はない。
------	---

適用基準	定量
------	----

主な危険要因	特殊分布、その他(災害) 多雪地の沢の最上流部に依存し、生育基盤は脆弱と考えられる。
--------	---

総産地数	2
現存	2
不明	0
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

オクタマツリスゲ

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

Carex filipes Franch. et Sav. var. *kuzakaiensis* (M.Kikuchi) T.Koyama

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	絶滅危惧IA類
環境省(2007)	絶滅危惧IA類

評価理由	尾瀬の狭い範囲の4カ所から100株が確認された。生育地点は立入禁止地域でニホンジカの食害もないが、やや不安定立地を好むため、動態も不安定要素がある。
------	--

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	自然遷移 土石流跡で増加している。今後安定化とともに減少する可能性が高い。
--------	--

総産地数	4
現存	4
不明	0
絶滅	0

特記事項	近年尾瀬の群馬県側(立入禁止地域)で発見された。目につかず分類が難しいグループであることに加え、東北地方固有と考えられてきたため、見過ごされてきた可能性が高い。ニホンジカの嗜好性は低い。
------	---

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

テイネニガクサ

被子植物・双子葉類
シソ科

Teucrium teinense Kudô

今回評価	絶滅危惧II類
環境省(2014)	準絶滅危惧
環境省(2007)	準絶滅危惧

評価理由	互いに離れた4地点で採集記録がある。分布域は30km×20kmと見積もられる。生育地1地点の詳細情報から、絶滅リスクは他の絶滅危惧II類の種より低いと判断された。
------	---

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	森林伐採、その他(歩道整備)
--------	----------------

総産地数	4
現存	4
不明	0
絶滅	0

特記事項	過去にも不確かな生育情報はあったが、2016年に標本同定の結果から県内に分布することが判明した。不明種とされたりツルニガクサの若いものと誤認されてきた。ニホンジカの生息密度が高い地点でも食害は確認されていない。
------	---

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	△
西部	
東部	

シラネアザミ

Saussurea nikoensis Franch. et Sav.

被子植物・双子葉類
キク科

今回評価	準絶滅危惧
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	県北部の亜高山帯に広く分布する。しかし、主要産地である尾瀬や日光連山ではニホンジカによる食害により急速に衰退している。
------	---

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	動物食害 ニホンジカの嗜好性が高く、ニホンジカの生息密度が高い生育地では、壊滅的な影響を受けている。
--------	---

総産地数	14
現存	10
不明	4
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	○
中部	
西部	○
東部	

マルバサンキライ

Smilax stans Maxim.

被子植物・単子葉類
ユリ(シオデ)科

今回評価	準絶滅危惧
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

評価理由	7地点から約100株が確認された。未確認の生育地には大規模なものがあり株数は過小評価と考えられる。ただし、ニホンジカ食害により減少していることは確実。
------	---

適用基準	定量
------	----

主な危険要因	動物食害 ニホンジカの嗜好性が高く、西部地域では衰退し、矮小化が顕著。
--------	--

総産地数	11
現存	7
不明	4
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	△
中部	
西部	○
東部	

--	--

--	--

--	--

--	--

--	--

--	--

--	--

--	--